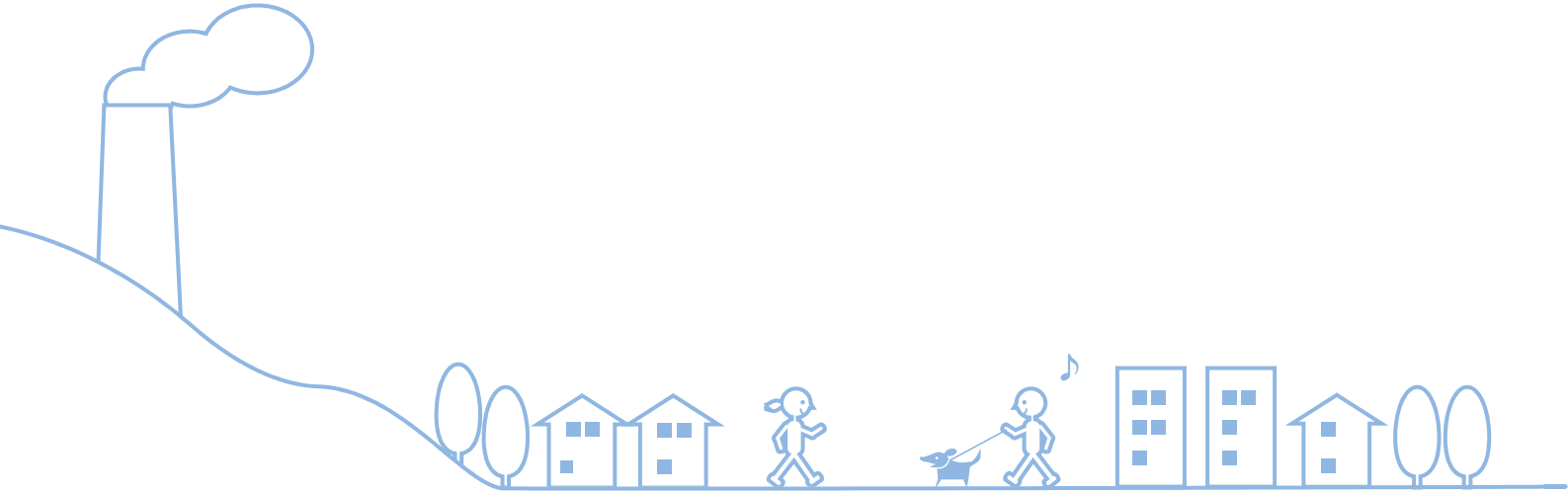
日立市に住む
男女の生活と
意識の調査



令和３年３月

日　立　市

－　目　　次　－

Ⅰ　調査の概要 …… 1
1　調査の背景 …… 1
2　調査の目的 …… 1
3　調査の対象・方法 …… 1
4　調査の内容 …… 1
5　回収の結果 …… 2
6　調査結果の見方 …… 2

Ⅱ　調査結果の概要 …… 3

Ⅲ　回答者の属性 …… 8
1　性別と年齢 …… 8
2　配偶関係 …… 11
3　育児と介護の有無 …… 14
4　家族構成 …… 20
5　最終学歴 …… 22
6　居住地区 …… 24

Ⅳ　調査結果 …… 26
1　男女の地位や役割について …… 26
（１）「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について …… 26
（２）女性が職業を持つことについて …… 29
（３）男女共同参画に関する言葉の周知度 …… 33
（４）男女の地位について …… 37
（５）平等になるために不足していること …… 55
（６）「男性だから」「女性だから」という決めつけによる生きにくさ …… 58
2　家庭生活・地域活動について …… 63
（１）結婚観について …… 63
（２）家事の分担について …… 73
（３）地域活動について …… 77
（４）家庭生活や地域生活の悩みや不安について …… 94
（５）家庭生活の満足度 …… 105
3　仕事と生活（家庭生活や地域活動、個人の生活）の両立について …… 107
（１）仕事の有無 …… 107
（２）配偶者の職業 …… 112
（３）家事と仕事の時間 …… 114
（４）仕事をしている理由 …… 117
（５）職場の満足度 …… 120

（６）職場の状況……128
（７）仕事と家庭の両立に関する不安……132
（８）就職希望の有無……136
（９）就職する際、重視すること……143
（10）仕事と生活を両立するために必要な支援……146
（11）離職した女性の社会活動復帰……149
（12）離職経験……152
4　配偶者、恋人などからの暴力について……158
（１）ＤＶ相談窓口の認知度……158
（２）配偶者、恋人などからの暴力の有無……160
5　日立市について……167
（１）女性センター（らぽーるひたち）の利用度と周知度……167
（２）女性センター（らぽーるひたち）に期待する役割……169
（３）市が行っている現在の取組の評価……173
（４）男女共同参画の各施策の重要度……186
6　自由記載（抜粋）……199

付録　調査票……205

Ⅰ　調査の概要

１　調査の背景

日立市では、日立市に住む男女の意識や生活を把握し、男女共同参画のより一層の推進が必要な分野や方向性を捉えるため、下記のように生活と意識に関する調査を定期的に実施してきた。

調査年度	実施対象
昭和 56 年（1981 年）度	女性
昭和 63 年（1988 年）度	女性
平成　４年（1992 年）度	男性
平成　９年（1997 年）度	男性・女性
平成 14 年（2002 年）度	男性・女性
平成 19 年（2007 年）度	男性・女性
平成 23 年（2011 年）度	男性・女性
平成 27 年（2015 年）度	男性・女性

２　調査の目的

本調査は、日立市男女共同参画社会基本条例第 10 条に基づき、日立市に住む男女の家庭や仕事、地域等に関する意識と実態を把握することを目的とする。

また、現在の男女の意識や課題に沿った施策を展開していくため、第４次ひたち男女共同参画計画策定の参考とする。

３　調査の対象・方法

日立市に住む満 20 歳以上の成人の男女を対象とし、郵送によって調査票を配布・回収した。

（１）調査地域　　日立市全域
（２）調査対象　　日立市に住む満 20 歳以上の男女
（３）標 本 数　　男性 2,000 人　　女性 2,000 人　　合計 4,000 人
（４）抽出方法　　日立市の住民基本台帳から満 20 歳以上の男女 4,000 人を無作為抽出
（５）調査方法　　郵送による質問紙法
（６）調査期間　　令和２年８月 20 日（発送）～９月 10 日（回収〆切）

４　調査の内容

調査の構成として、男女の地位や役割、家庭生活・地域活動、仕事と生活(家庭生活や地域活動、個人の生活)の両立、パートナーからの暴力、日立市の役割といった５つのテーマについて調査を行った。結果については、男女別、年齢別に分析を行い、過去に実施した調査との比較により意識や実態の変化を捉えたほか、国の世論調査との比較も行い日立市の特徴についての考察を行った。

テーマ	視　点
男女の地位や役割	・固定的な性別役割分担に対する意識、女性の職業の持ち方について ・各分野における男女の平等感、男女共同参画の浸透度について
家庭生活・地域活動	・結婚に対する考え方、家事分担について ・地域活動への参加について ・家庭生活や地域生活に対する悩みや不安、満足度について
仕事と生活 （家庭生活や地域活動、個人の生活）の両立	・働く男女の実態や意識、職場環境について ・仕事と生活の両立について ・仕事と生活の両立に向けて、企業や事業所に望む支援などについて
パートナーからの暴力	・配偶者や恋人などパートナーからの暴力の実態について ・暴力に対する相談、対応状況について
日立市の役割	・女性センター（らぽーるひたち）の利用状況や周知度、役割について ・現在の取組の評価、今後取り組むべき施策の重要度など

5　回収の結果

発送した 4,000 人のうち、有効回答数は 2,066 人、有効回答率は 51.7％となり、対象総数の過半数から回答を得ることができた。

（※前回調査　発送：4,000 人、有効回答数：2,077 人（男性 940 人、女性 1,080 人、不明 57 人）、有効回答率：51.9％）

	総　数	男女別
対象総数(a)	4,000 人	男性 2,000 人、女性 2,000 人
回収数(b) 回収率(c=b/a)	2,072 人 51.8%	男性 904 人、女性 1,118 人、回答しない 3 人、不明 47 人 （43.6%）　（54.0%）　（0.1%）
無効(d)	6 人	不明 6 人
有効回答数(e=b-d) **有効回答率(f=e/a)**	2,066 人 51.7%	男性 904 人、女性 1,118 人、回答しない 3 人、不明 41 人 （43.8%）　（54.1%）　（0.1%）

6　調査結果の見方

（１）百分率の計算は、小数点第 2 位で四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。また、回答数があるにもかかわらず、全体では０％と表示される場合がある。
（なお、コメント等における割合の合計とは、各選択肢の割合を小数点第 2 位で四捨五入した結果を加算したものである。）

（２）複数回答の設問の場合、設問の回答者数に対する選択肢ごとの割合を表示している。このため、合計が 100%を超える場合がある。

（３）「不明」は、回答していないもの（無回答）のほか、選ぶべき選択肢の数や答え方を間違えている回答等の判断不明なものを含む。

（４）円グラフ及び棒グラフについては、実数と割合を併記している（上段：実数、下段：割合）。年齢別の帯グラフについては、割合のみ表記している。

Ⅱ　調査結果の概要

Ⅱ－１　回答者の属性

１　性別と年齢

回答者の男女比は、男性 43.8%、女性 54.1%で、女性の方が１割高い。また、回答者の年齢別割合は、概ね市全体の人口割合に沿ったものになっているが、65 歳以上の高齢層の割合が半数近くを占めており、全年齢集計のほか、若者世代及び現在子育て中の世代の考え方や傾向を把握するため、50 歳未満（20 歳～49 歳）について集計・分析を行っている。

２　配偶関係

回答者全体では、「既婚」が７割を占めているが、50 歳未満では、「未婚」の割合は男性が４割強、女性が３割弱で、特に男性の未婚率が高くなっている。女性は、25 歳から 29 歳の年齢層で既婚率が上昇したものの、20 代前半及び 30 代から 40 代前半の年齢層において過去２回の調査の既婚率をさらに下回っている。

３　育児と介護の有無

子どもがいる 50 歳未満の人の中で、一番下の子どもが中学生以下の割合は、男性が８割強、女性が８割弱となっている。また、子どもがいる女性の中で「就学前」の子どもがいる割合は、40 代前半でも３割であることから、子どもを産む年齢が上昇していることがうかがえる。

家族に介護を必要とする人が「いる」割合は２割程度だが、要介護者と同居している割合は、50 代後半から 60 代の男性で若干高くなっている。

４　家族構成

50 歳未満では、男性の６割弱、女性の７割弱が、「親と子（二世代）」の世帯であり、子育て世代の核家族化がうかがえる。また、男性では、「ひとり暮らし」の割合が２割近くを占めており、特に男性の 20 代前半の割合が前回調査と比較して２割増加している。

５　最終学歴

男女ともに若い年代ほど「大学・大学院」の割合が高いが、男性 60 代の「大学・大学院」の割合が比較的高くなっている。

６　居住地区

回答者の居住地区をみると、市内全域からの回答となっている。

Ⅱ－２　調査結果

１　男女の地位や役割について

（１）「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について

反対派は、男性で５割、女性６割となっており、どちらも前回調査よりも１割ほど上昇している。50 歳未満では、さらに反対派の割合が高く、男性で６割、女性で７割弱となっている。

（２）女性が職業を持つことについて

50 歳未満では、男女共に「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」が高く、前回調査よりもその意向が強くなっている。特に女性ではその考え方が世代を問わず定着しつつある。

（３）男女共同参画に関する言葉の周知度

「ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）」、「男女雇用機会均等法」、「育児・介護休業法」の周知度は全体の７割以上で、50 歳未満では、男女共に「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」「ＬＧＢＴ」についての周知度が高く、比較的若い世代を中心に言葉が定着しつつある。また、本市における男性の「ワーク・ライフ・バランス」の周知度は全国値より１割以上高い。

（４）男女の地位について

男女共に「職場」「社会通念・慣習・しきたりなど」「政治の場」「社会全体」で“男性優遇”と感じる割合が５割以上となっている。その他、女性は「家庭生活」や「町内会・自治会等の自治組織」でも“男性優遇”と感じており、前回調査と比較しても、傾向はあまり変化せず改善していない。

（５）平等になるために不足していること

全体的には、男女共に「施設やサービス（保育や介護等）の充実を図ること」が高い割合となっているが、50 歳未満の若い世代では、「固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」の方が高い。その他、年代別特徴としては、30 代前半の男性では「女性リーダーに対する男性の抵抗感をなくすこと」、30 代の女性では「男女の働き方の見直しを行うこと」がそれぞれ最も高くなっている。

（６）「男性だから」「女性だから」という決めつけによる生きにくさ

生きにくさを感じたことが「ある」割合は、女性の方が１割程高く、50 歳未満の女性では６割近くとなっており、若い年代の女性の多くが生きにくさを感じている。理由について、男性では「経済力が求められる」、女性では「育児や介護等、家族の世話を担うことが多い」が最も高くなっている。

２　家庭生活・地域活動について

（１）結婚観について

「やすらぎや精神的充足」「社会的評価」「ゆとりある生活」「日常生活が楽」「自分が成長」といったプラスの結婚観は、男女共に年齢が高い層では割合が高く、若年層の女性は、結婚に「ゆとりある生活」を期待していない。一方、「自由がなくなる」「面倒さがある」といったマイナスの結婚観は、男性では若年層で、女性はどの年代も比較的高くなっている。

（２）家事の分担について

家庭での家事分担について、女性が家事の主たる項目（掃除、洗濯、食事のしたく、後かたづけ）について「自分」が担う割合は７～８割と高くなっている。特に女性の 35 歳以上の年齢層で「自分」が担当している割合は高くなり、40 代後半から 50 代前半でピークに達しており、女性の中高年層の家事負担の大きさがうかがえる。一方、育児については、家族で同程度の分担をしているとの回答が男女とも４割ほどあり、比較的協力体制が取れている家事の一つといえる。

（３）地域活動について

参加率は男女共に「町内会・自治会の会合や行事」が最も高く、次いで、「コミュニティ活動」となっている。50 歳未満の女性では「保育園や幼稚園、学校のＰＴＡ活動」への参加率が４割前後と最も高く、男性の２倍となっている。参加しない理由では、男女共に「きっかけがない」が最も高くなっており、50 歳未満の男性では５割を超えている。

（４）家庭生活や地域生活の悩みや不安について

家庭生活や地域生活に悩みや“不安がある”割合は、男女共に「自分の将来に関する問題」が最も高く、次いで、男性では「心身の健康」、女性では「自分自身や家族の介護」となっている。また、50 歳未満では、男女共に「自分の将来」や「経済的な問題」に“不安がある”割合が高くなっている。

（５）家庭生活の満足度

全体的に“満足”している割合は８割を超えており、高い傾向にある。その中において、男性の 30 代から 40 代前半等では家庭生活の満足度が低く、働き盛りで仕事が忙しい時期が重なる頃に家庭での満足が得られにくくなる状況がうかがえる。

３　仕事と生活（家庭生活や地域活動、個人の生活）の両立について

（１）仕事の有無

50 歳未満で収入を伴う“仕事をしている”割合の合計は、男性が９割弱、女性が７割強で男女共に

割合が高いが、50 歳未満の「正規雇用者」は、男性で７割強、女性は４割弱となっている。

前回調査と比較すると、女性の概ね全年齢層で就業率が増加しているが、全国と比較して 35～39 歳で特に就業率が低く、出産・育児等を契機に離職する女性が多いことが考えられる。

仕事の内容では、「管理職」は男性で３割だが、女性では１割を切り、まだ低い状態にある。

（２）配偶者の職業

配偶者が“仕事をしている”割合は、男性で６割、女性で９割となっている。

（３）家事と仕事の時間

仕事をしていると回答のあった人のうち、平日の「仕事」は男性が 1.7 時間多いものの、平日・休日の「家事」は女性が 2.8 時間多くなっている。なかでも女性は 30 代後半から 40 代前半等で家事時間が最も多く、この世代では働く女性の家事負担が大きくなっている。

（４）仕事をしている理由

男女共に「生活のため」の割合が最も高いが、次いで、男性では「働くことがあたりまえだから」、女性では「家計の補助とするため」となっている。また、女性ではほぼ全年代を通して「社会とのつながりを持つため」という回答が男性より多く、その差も大きいことから、仕事に求めるものが男女で異なっていることがうかがえる。

（５）職場の満足度

男性は、「仕事の内容」は満足度が高いものの、「給料」や「役職・待遇」、「職場全体」について不満が高くなっている。女性では、「仕事の内容」や「上司・同僚」、「職場全体」について満足度は高いものの、「給料」では全年齢層で、「役職・待遇」では 40 代後半や 50 代で不満がある。

（６）職場の状況

「特に差別や問題はない」との回答は、女性の方が高い。男性では「男性が育児・介護に係る休業や休暇を取りにくい雰囲気にある」、「仕事の内容に男女差がある」、「時間外労働が多い」といった回答が多く、男性が育児や介護に関わりやすい環境づくりが課題である。

40 代後半から 50 代前半にかけて、職場内に何らかの問題があると考えている男性が多い。

（７）仕事と家庭の両立に関する不安

「特にない」と回答した割合は男性の方が高い。20 代後半から 40 代前半の女性では「ゆっくり休んだりストレスを解消する時間がなく、心身の健康が不安」、40 代後半から 50 代の年齢層では「親や家族の介護のために仕事を辞めなくてはならなくなる可能性がある」が高くなっている。

（８）就職希望の有無

現在収入を伴う仕事をしていない人のうち、今後仕事をしたい人は、50 歳未満では男女共に８割以上だが、女性は９割近くで男性より若干高くなっている。

現在仕事をしていない理由について、50 歳未満の男性では「就学中または資格取得などの準備中」が多いが、女性では、30 代や 40 代前半で「仕事と家庭の両立が難しい」、50 代後半や 60 代では、「自分の条件に合う仕事が見つからない」の割合が高くなっている。

また、仕事につくとき希望する働き方では、50 歳未満の男性では「正社員」が７割以上なのに対し、50 歳未満の女性では「正社員」が３割、「パートやアルバイト」が６割となっている。

（９）就職する際、重視すること

男性では、55 歳未満では「給料の条件が良い」の割合が高く、「仕事にやりがいがある」は、特に 50 代で７割と高くなっている。女性では、30 代・40 代で「勤務時間・勤務場所の条件が良い」の割合が９割前後と高く、「職場の雰囲気が良い」は、55 歳未満の各年齢層で概ね８割近くと高くなっている。

（10）仕事と生活を両立するために必要な支援

若い世代の男性では「男性も子育てに参加できる環境づくり」や「子どもの看病のための休暇が安心して取れる制度」、女性では「子どもの看病のための休暇が安心して取れる制度」や「妊娠中や

育児期間中の勤務軽減」が求められている。50 代の男女では「介護をしながらも意欲を持って働きつづけられる制度づくり」が必要とされている。

（11）離職した女性の社会活動復帰

男性では、どの年齢層でも「正社員」が良いと思う割合が概ね高いが、女性の場合、20 代から 40 代前半くらいまでの比較的若い年齢層では「正社員」で「仕事と家事・育児・介護との両立しやすさなどを重視」の割合が高く、仕事とバランスの取れた再就職を希望する傾向にある。

（12）離職経験

50 歳未満で「仕事をやめた経験がある」割合は、男性で４割だが、女性では７割と圧倒的に多く、特に 30 歳以上 70 歳未満の各年齢層においては８割前後の女性が離職経験があると回答した。

また、50 歳未満で仕事をやめた理由をみると、男性では「別の仕事や活動をしたかった」が最も高いが、女性では、「家事や育児に専念したかった」や「仕事と家庭の両立が難しかった」が比較的高い割合となっており、家庭生活が仕事の継続に大きな影響を与えていることがわかる。

4　配偶者、恋人などからの暴力について

（１）ＤＶ相談窓口の認知度

ＤＶ相談窓口を「知っている」割合は全体の４割弱で、女性の方が１割程認知度が高くなっている。前回調査と比較すると、認知度は向上しておらず、男性の若い世代で認知度が２割程度と低い層がある。

（２）配偶者、恋人などからの暴力の有無

パートナーからの何らかの暴力が“あった”割合は、全体として女性の方が高くなっている。特に、心理的暴力が“あった”割合が最も高く、男性で１割、女性で２割であり、女性の方が１割程高い。

暴力を受けた人について、「どこにも相談しなかった」割合が全体の６割を占め、男性の方が相談していない割合が高く、また、その理由として「相談するほどのことでもないと思ったから」が高くなっており、男性のＤＶ被害が表面化していない課題が見て取れる。

さらに、ＤＶ後の対応として、「別れたいと思ったが、別れなかった」割合は、女性の方が２割近く高く、我慢をしている女性が多いことがうかがえる。

5　日立市について

（１）女性センター（らぽーるひたち）の利用度と周知度

女性センター（らぽーるひたち）を「よく利用する」「１，２度利用したことがある」「利用していないが、知っている」の総数は、男性が５割、女性が６割強となっているが、50 歳未満では、男性の約６割が「知らない」と回答している。

また、“利用”している 50 歳未満の割合は、男性が１割、女性が２割で、男性、特に若い世代にはあまり利用されていない。男性の 20 代では、利用率が５％未満、「知らない」割合が７割以上である。

（２）女性センター（らぽーるひたち）に期待する役割

期待する役割として、男女共に「いつでもだれでも立ち寄れる交流の場」が多いが、若い世代の男性では「同じ悩みを抱えている人たちへのネットワーク支援」、同じく女性では「女性相談の窓口」が求められている。

（３）市が行っている現在の取組の評価

現在の取組の評価については、全項目で男女共に５点中３点を若干上回り、男性よりも女性からの評価が高くなっている。特に「保育や介護の施設やサービスの充実」は、女性の全年齢層で 3.20

点以上で特に20代・30代の評価が高くなっており、子育て支援事業の充実が評価につながっていると考えられる。

（4）男女共同参画の各施策の重要度

「保育や介護の施設やサービスの充実」は男女共に全年齢層で最も重要視されている。その他、女性においては、「男女の平等や相互の理解・協力に関する学校教育や社会教育の充実」が全年齢層を通して重要だと感じており、「政策決定に女性の意見や視点を生かす」が20代後半や30代前半の若い世代で重要視されている。

Ⅲ　回答者の属性

1　性別と年齢

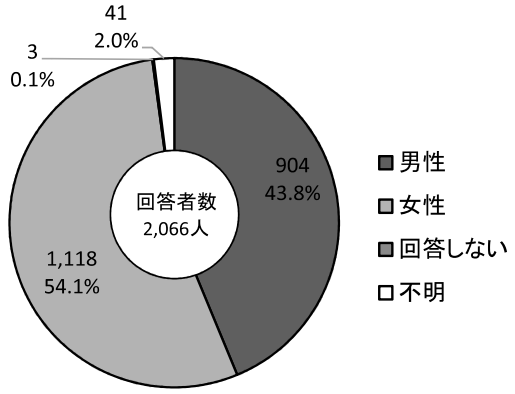
F1　あなたの性別を教えてください。（１つ選択）

1　男性　　2　女性　　3　回答しない

回答者の男女比は、男性 43.8%、女性 54.1%で女性が上回っている。前回調査と比較すると、男性は 1.5 ポイント減（45.3%→43.8%）、女性は 2.1 ポイント増（52.0%→54.1%）と、女性の割合が増加している。

男女別の配布数各 2,000 人に対する回収率をみると、男性は 45.2%（904 人）、女性は 55.9%（1,118 人）で、前回調査と比較すると、男性は 1.8 ポイント減（47.0%→45.2%）、女性は 1.9 ポイント増（54.0%→55.9%）となっている。

F1　性別



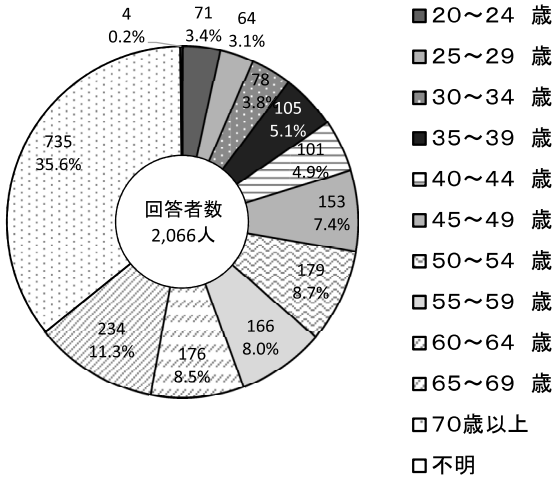
F2　あなたの満年齢はおいくつですか。（１つ選択）

1	２０～２４　歳	7	５０～５４　歳
2	２５～２９　歳	8	５５～５９　歳
3	３０～３４　歳	9	６０～６４　歳
4	３５～３９　歳	10	６５～６９　歳
5	４０～４４　歳	11	７０歳以上
6	４５～４９　歳		

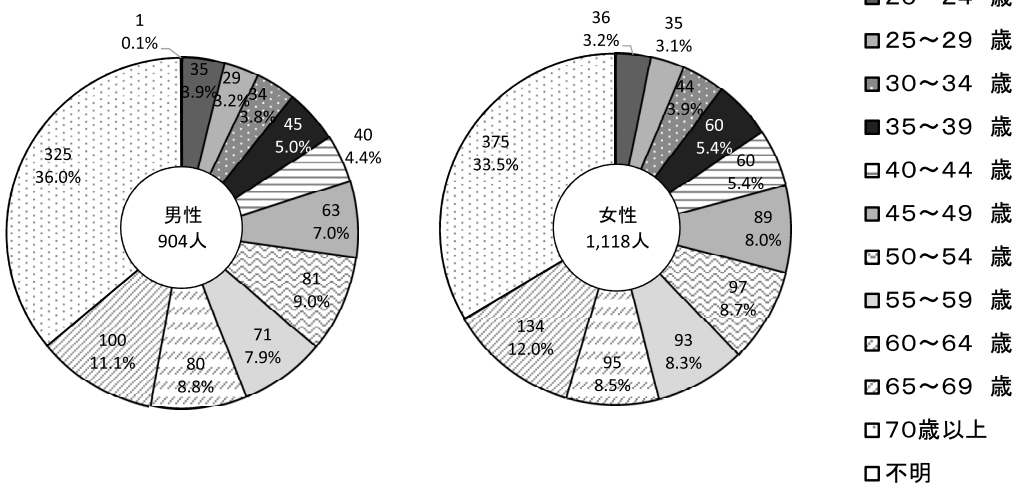
回答者の年齢構成は、70 歳以上が 35.6%、65～69 歳が 11.3%であり、65 歳以上の高齢層の割合が半数近くとなっている。

一方、若年層の割合をみると、20 代が 6.5%、30 代が 8.9%で、低い割合となっている。

F2　年齢



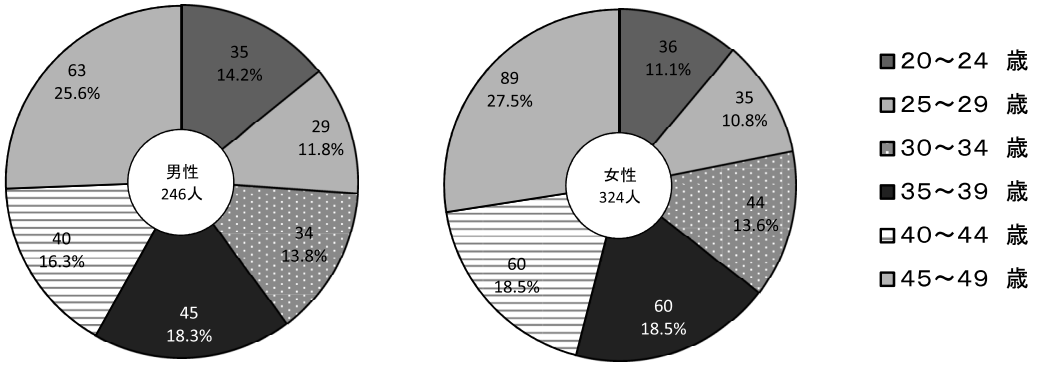
F2　年齢【男女別】



男女別にみると、65 歳以上の割合は、男性で 47.1%、女性で 45.5%となっており、男女ともに高齢者層の割合が高くなっている。

一方、若年層については、男性が 20 代 7.1%、30 代 8.8%、女性が 20 代 6.3%、30 代 9.3%で、男女ともに低い割合となっている。

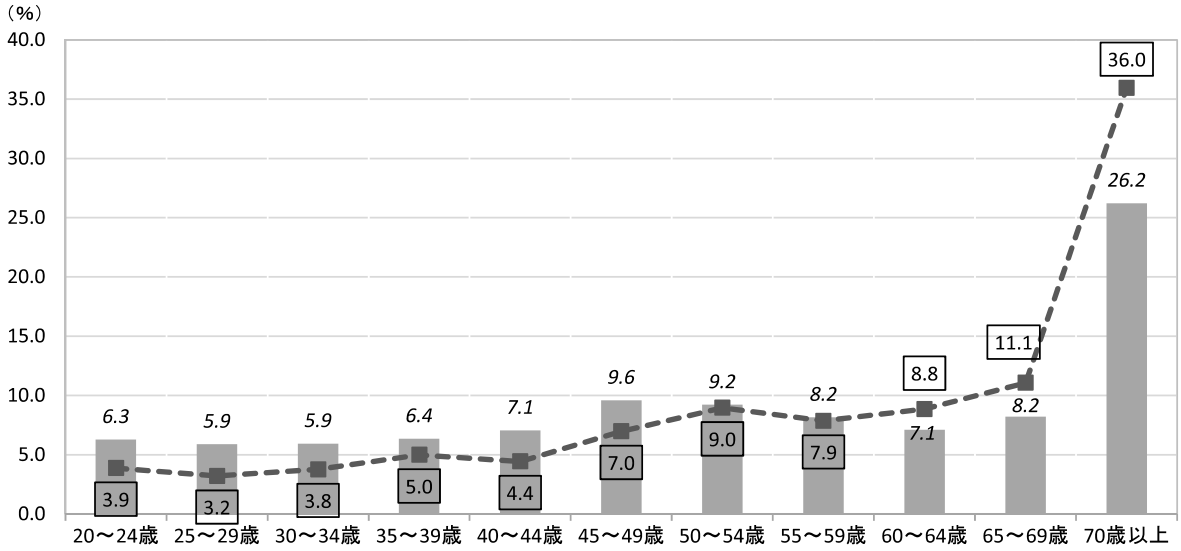
F2　年齢【男女別・50 歳未満】



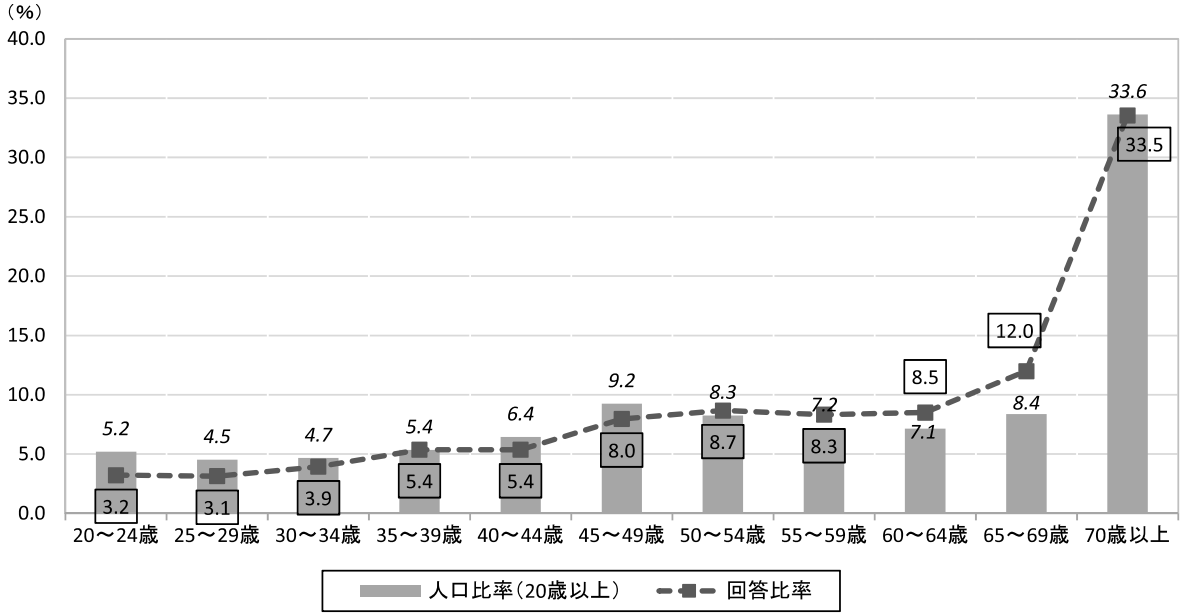
なお、本調査では、これからの社会を担う世代の意識を把握するとともに、前回調査との比較を行うため、若者世代及び現在子育て中の世代として、50 歳未満（20 歳～49 歳）の集計結果を、年齢別集計結果とともに分析することとした。

日立市の人口比率（20 歳以上）とアンケート回答者の年齢別割合

【男性・年齢別】



【女性・年齢別】



（※人口比率：令和２年 10 月１日　住民基本台帳をもとに、20 歳以上人口における各年齢層の人口割合を算出）

また、本アンケートの回答者の年齢別割合と、令和２年 10 月１日現在の年齢別人口割合（20 歳以上人口における各年齢層の人口割合を算出）を比較すると、男性の 70 歳以上の回答比率が高いものの、その他は男女共に概ね人口割合に沿った比率となっている。

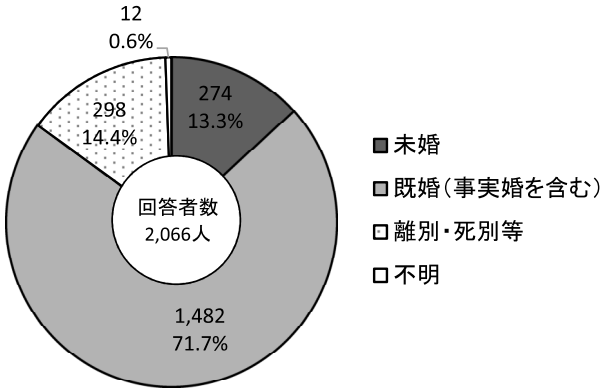
2　配偶関係

F3　あなたは結婚されていますか。（１つ選択）	
1　未婚	3　離別・死別等
2　既婚（事実婚を含む）	

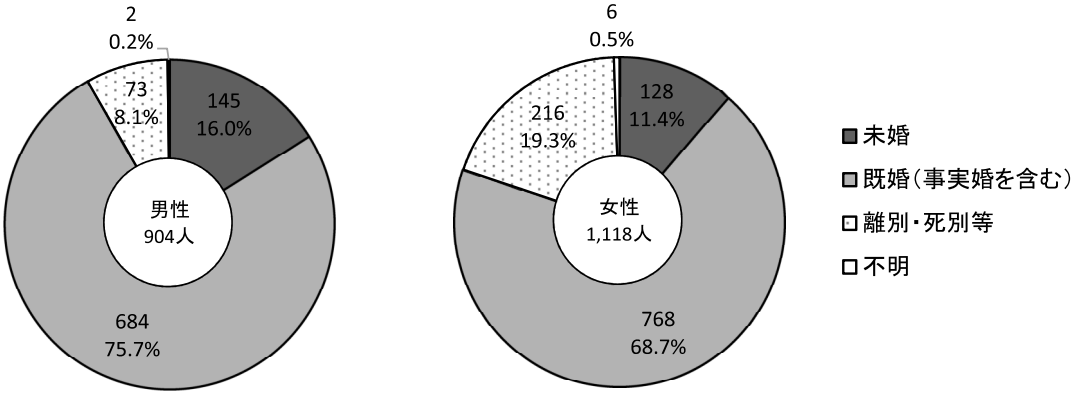
回答者の配偶関係をみると、「既婚（事実婚を含む）」が 71.7%で、既婚者が多くなっている。

一方、「離別・死別」は 14.4%、「未婚」は 13.3%となっている。

F3　配偶関係



F3　配偶関係【男女別】

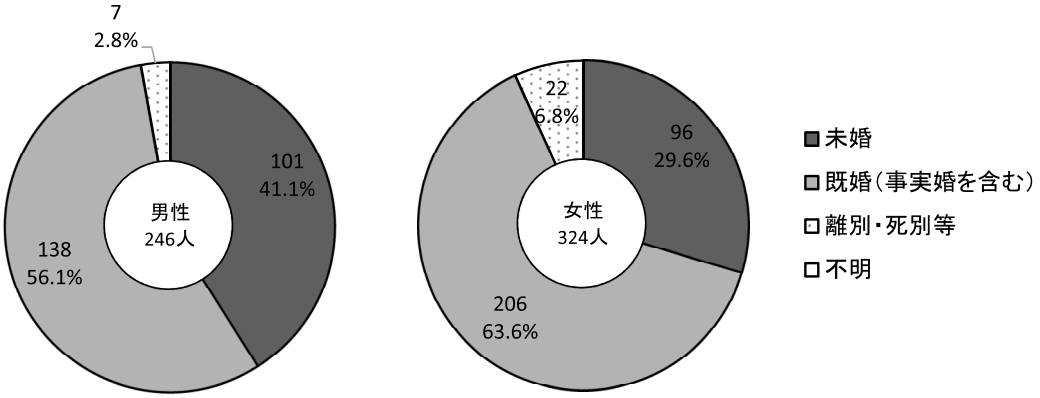


男女別にみると、「未婚」は男性 16.0%、女性 11.4%と、男性で 4.6 ポイント高くなっている。また、「既婚（事実婚を含む）」の割合は、男性 75.7%、女性 68.7%と、男性で 7.0 ポイント高く、女性は「離別・死別」が 19.3%と比較的高い割合となっている。

前回調査と比較して、「未婚」の割合（男性 16.8%→16.0、女性 11.8%→11.4%）に大きな変化はみられない。

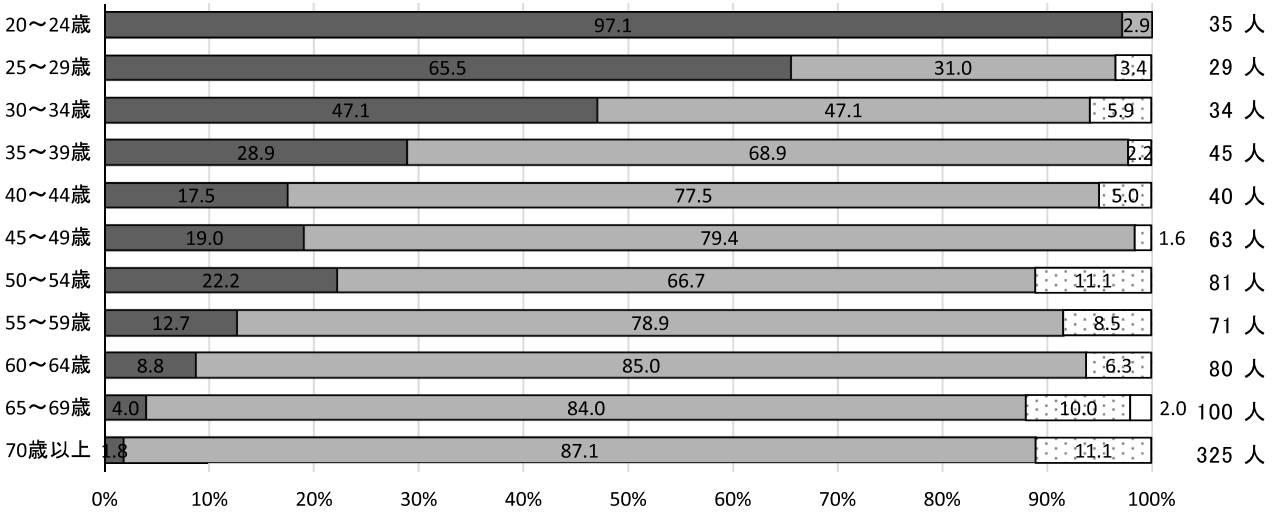
50 歳未満では、「未婚」の割合が男性 41.1%、女性 29.6%で、特に男性の未婚率が高くなっている。

F3　配偶関係【男女別・50 歳未満】

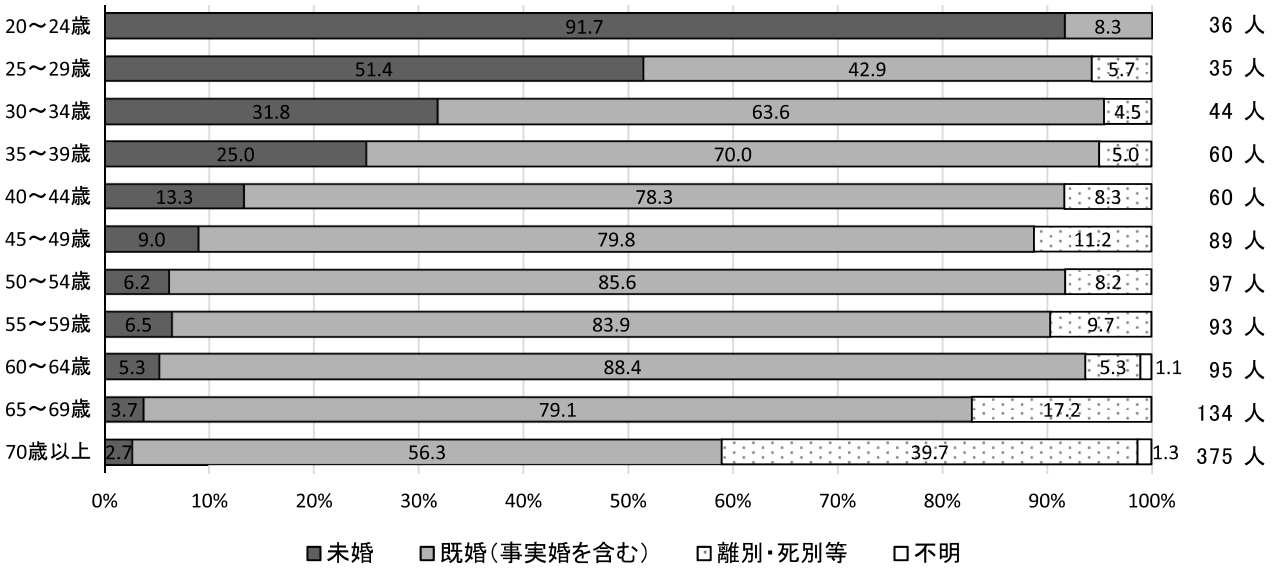


F3　配偶関係

【男性・年齢別】



【女性・年齢別】



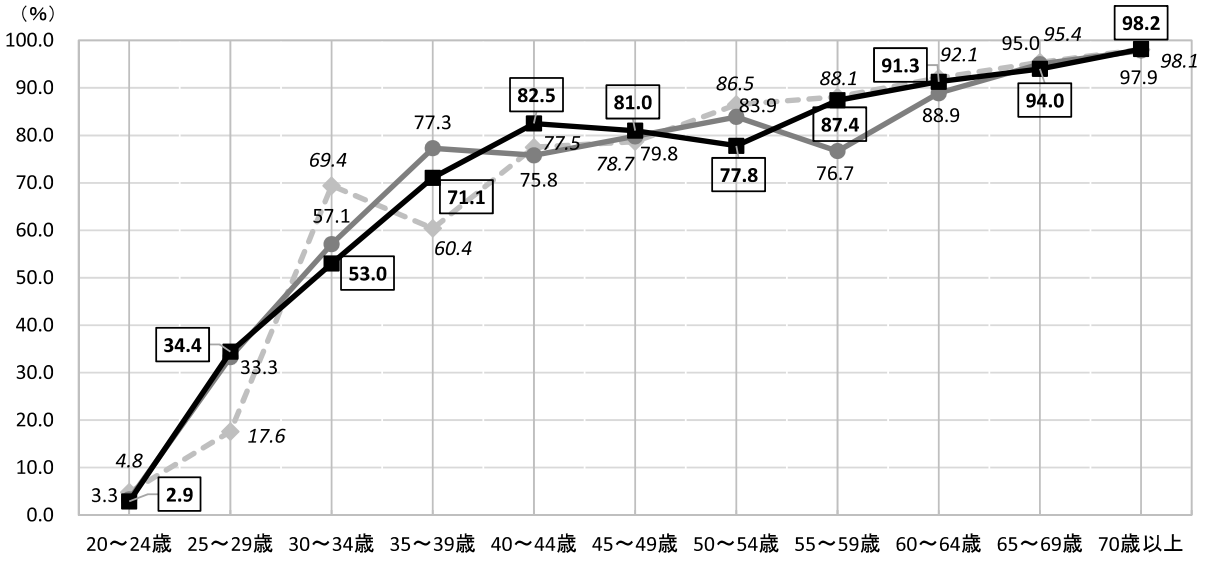
男女別・年齢別にみると、どの年齢層においても男性の「未婚」の割合が高いが、特に 20 歳から 34 歳までの年齢層の男性の未婚率が高く、30～34 歳の男性で半数近くが「未婚」である。女性においては 20～24 歳で９割、25～29 歳でも半数が「未婚」である。

また、「離別・死別等」の割合をみると、男性では 50～54 歳（11.1%）、70 歳以上（11.1%）、女性では 70 歳以上（39.7%）、65～69 歳（17.2%）、45～49 歳（11.2%）の年齢層で比較的高くなっている。

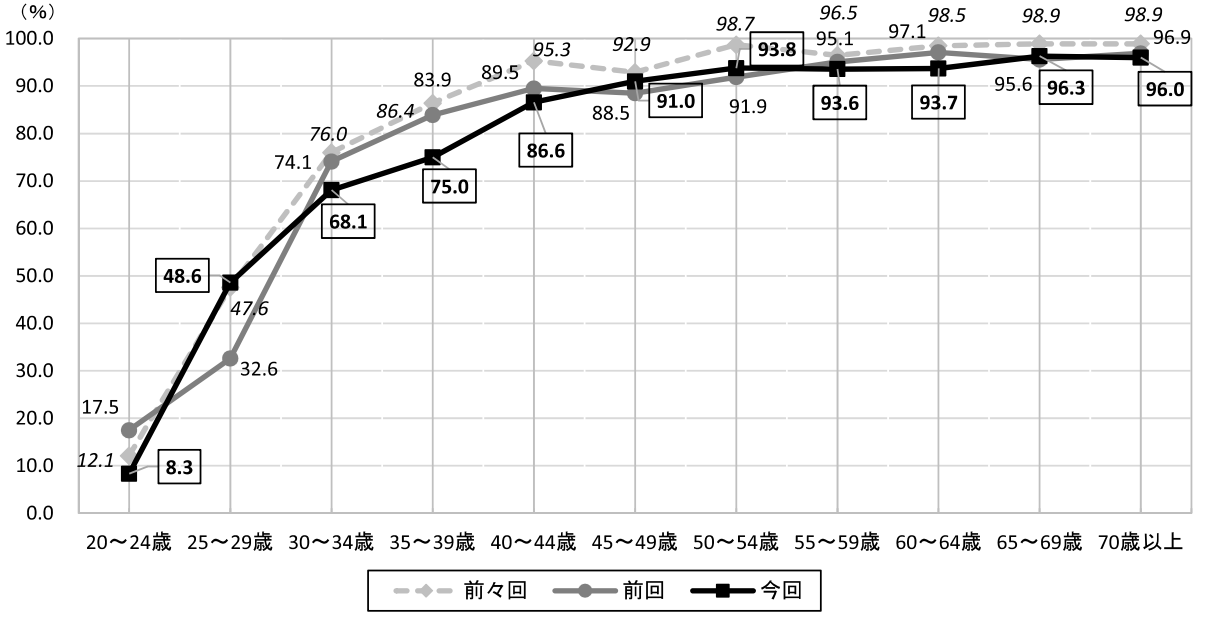
未婚率を前回調査と比較すると、男性では、30～34 歳で 4.2 ポイント上昇（42.9%→47.1%）、35～39 歳で 8.4 ポイント上昇（20.5%→28.9%）している。女性では、25～29 歳が 13.7 ポイント減少（65.1%→51.4%）しているものの、30～34 歳が 9.6 ポイント上昇（22.2%→31.8%）、35～39 歳が 8.9 ポイント（16.1%→25.0%）上昇しており、晩婚化･非婚化の進行がうかがえる。

既婚率の変化

【男性・年齢別】



【女性・年齢別】



（※前回、前々回：「結婚している」「別居」「離別」「死別」の割合の合計で、「事実婚」は含まない
今回：「既婚（事実婚を含む）」「離別・死別等」の割合の合計）

既婚率の変化を過去２回の調査と比較すると（ただし、今回調査では、「既婚」に事実婚が含まれている）、男性では、30 代は前回調査の既婚率を下回るが、40 代前半では過去２回の調査を上回るなど、年齢層でばらつきがみられる。

一方、女性では、30 代及び 40 代前半の年齢層で過去２回の調査の既婚率をさらに下回っており、特に 30 代後半では、前回の調査から 11.4 ポイントも低くなっている。

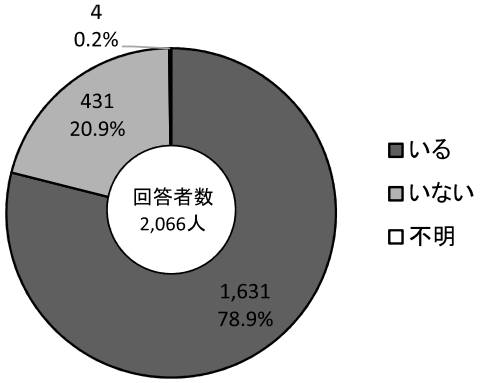
３　育児と介護の有無

ア　子どもの有無

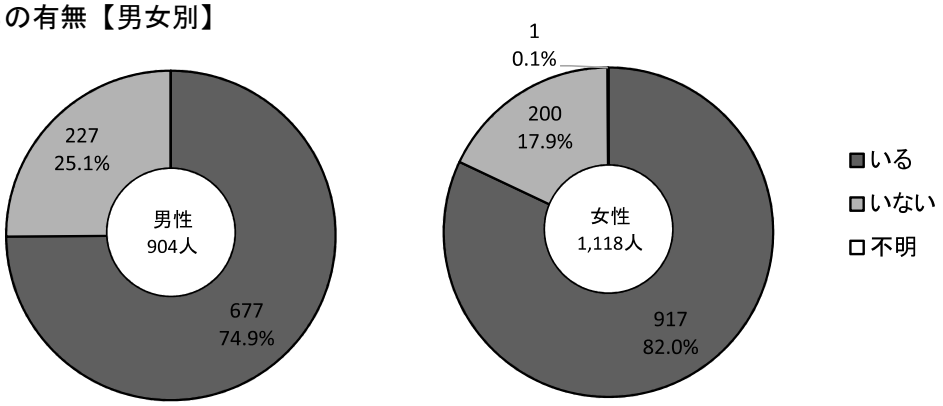
F4　あなたにはお子さんがいますか。（１つ選択）
1　　いる　　2　　いない

回答者に子どもが「いる」割合は 78.9%、「いない」割合は 20.9%となっている。

F4　子どもの有無



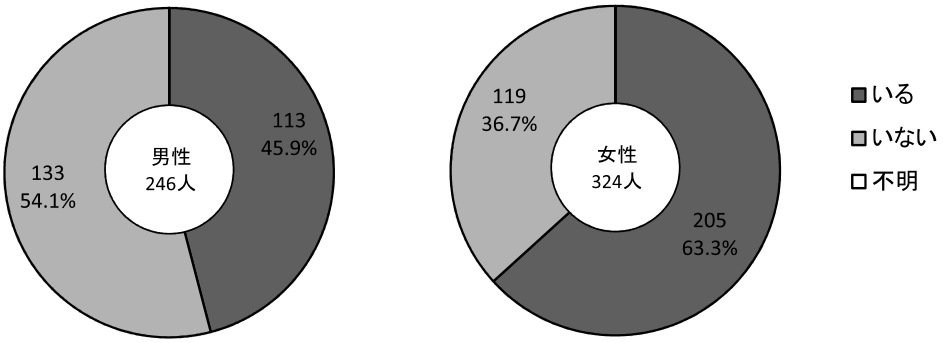
F4　子どもの有無【男女別】



男女別にみると、子どもがいる割合は、男性 74.9%、女性 82.0%と、女性で 7.1 ポイント高くなっている。

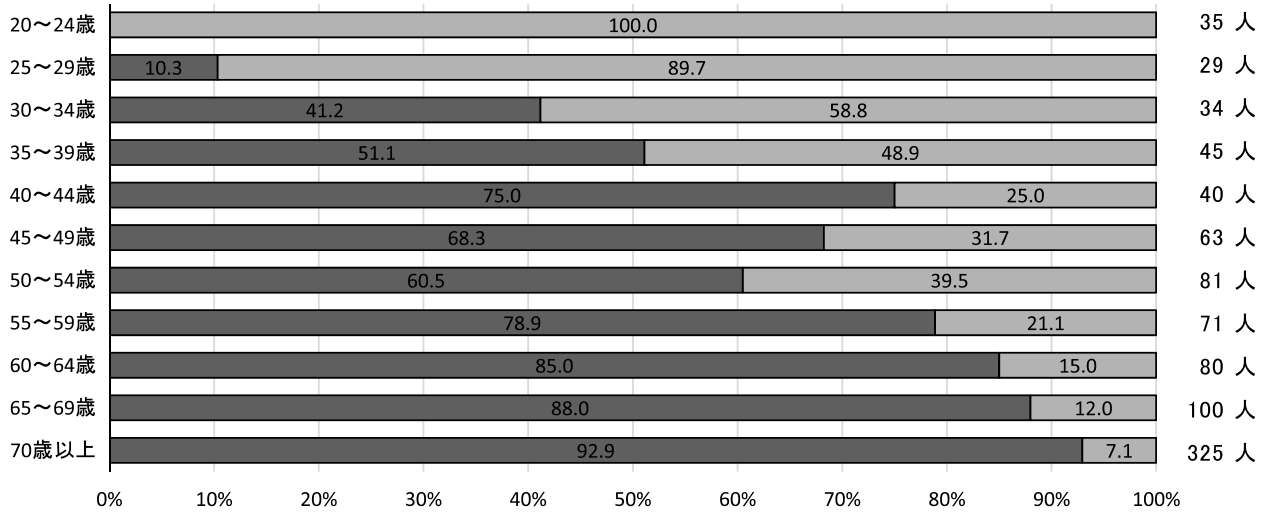
さらに、50 歳未満でみると、子どもがいる割合は、男性 45.9%、女性 63.3%と、女性で 17.4 ポイント高くなっている。

F4　子どもの有無【男女別・50 歳未満】

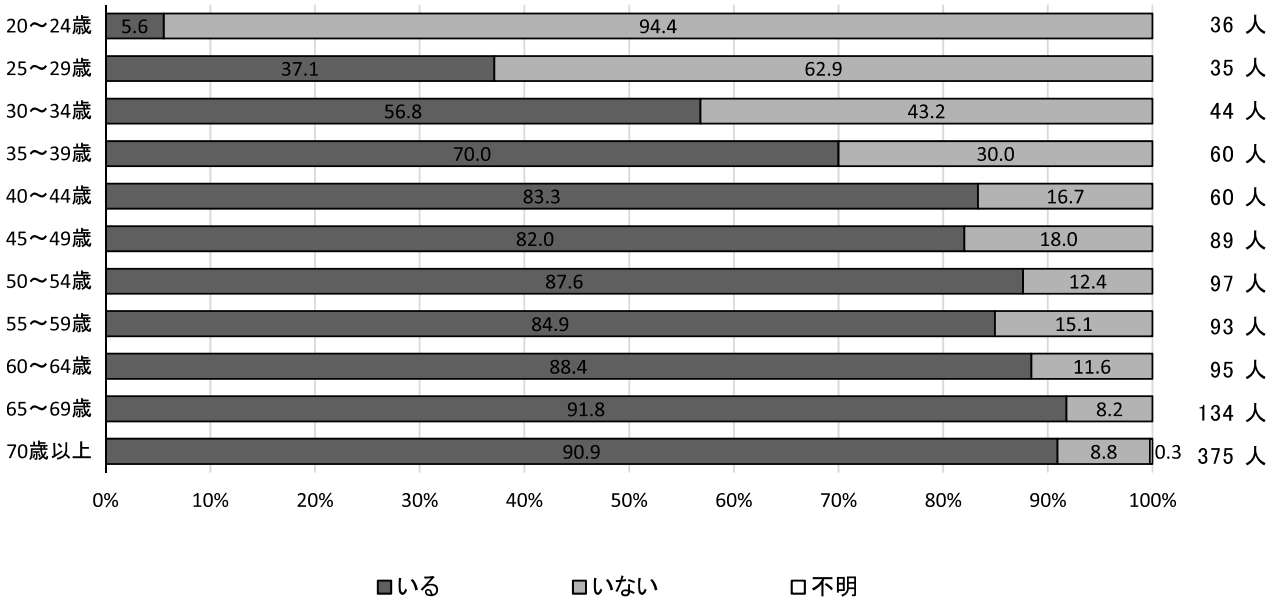


F4　子どもの有無

【男性・年齢別】



【女性・年齢別】



男性で子どもが「いる」割合は、30～34 歳で 41.2%、35～39 歳でも 51.1%となっており、40 代で若干割合が上昇するものの、50～54 歳で子どもの「いる」割合が 60.5%と下降している。

一方、女性で子どもが「いる」割合は、男性より総じて高いものの、25～29 歳で 37.1%、30～34 歳でも 56.8%と、30 代前半頃までは、子どもの「いる」割合が低くなっており、配偶関係の調査結果と合わせると、晩婚化・非婚化の影響が考えられる。

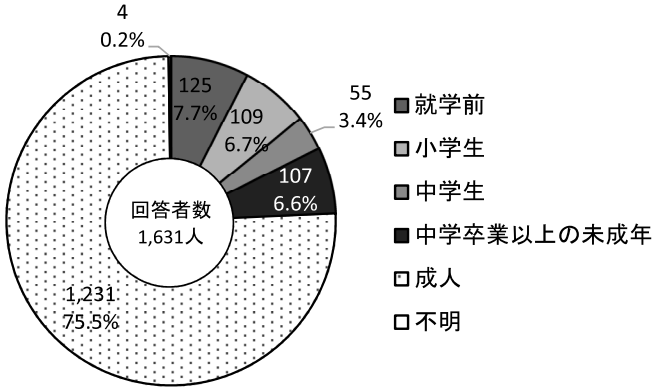
イ　子どもの年齢

【※F4 で「いる」と答えた方】	
F4-1　あなたの一番下のお子さんは次のうちどれにあてはまりますか。（１つ選択）	
1　就学前	4　中学卒業以上の未成年
2　小学生	5　成人
3　中学生	

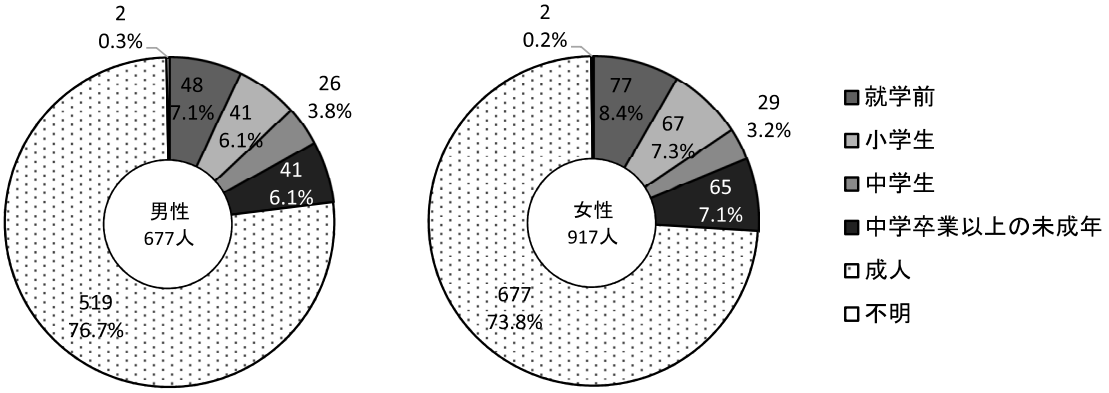
子どもが「いる」回答者のうち、一番下の子どもの年齢をみると、「成人」が 75.5%で多くの割合を占めている。

「就学前」は 7.7%、「小学生」は 6.7%、「中学生」は 3.4%、「中学卒業以上の未成年」は 6.6%で、未成年の子どもがいる割合は 24.4%となっている。

F4-1　一番下の子どもの年代



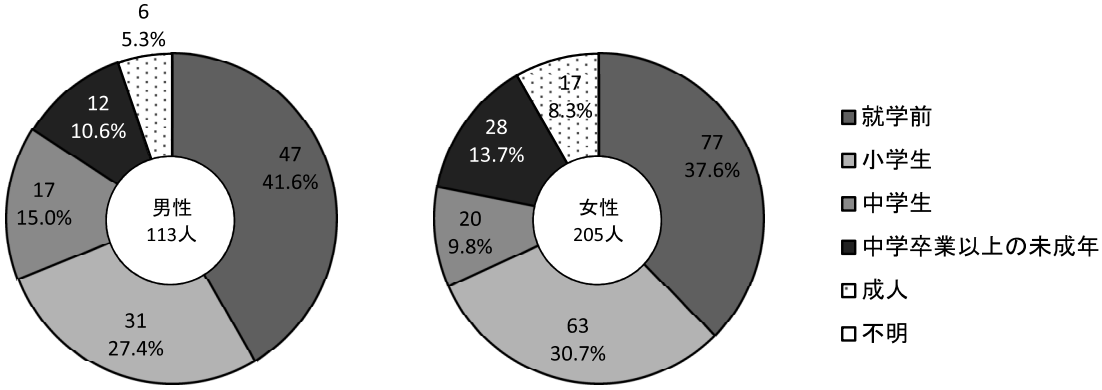
F4-1　一番下の子どもの年代【男女別】



男女別にみると、一番下の子どもが「成人」の割合は、男性 76.7%、女性 73.8%で、一番下の子どもが未成年以下の割合は、男性 23.1%、女性 26.0%となっている。

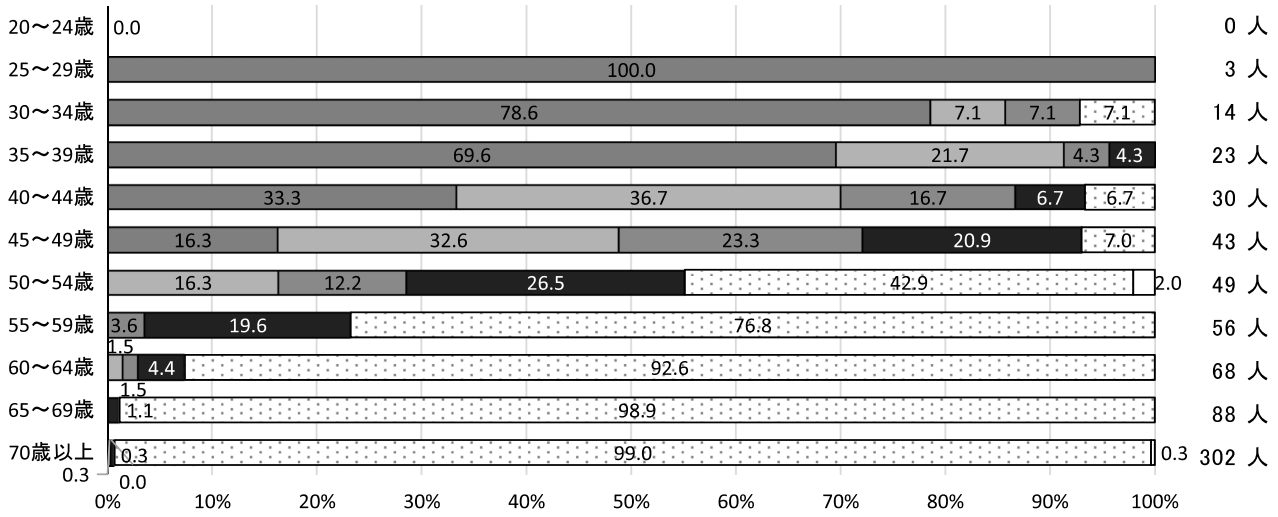
さらに、50 歳未満でみると、一番下の子どもが中学生以下の割合は、男性 84.0%、女性 78.1%と、男性で 5.9 ポイント高くなっている。

F4-1　一番下の子どもの年代【男女別・50 歳未満】

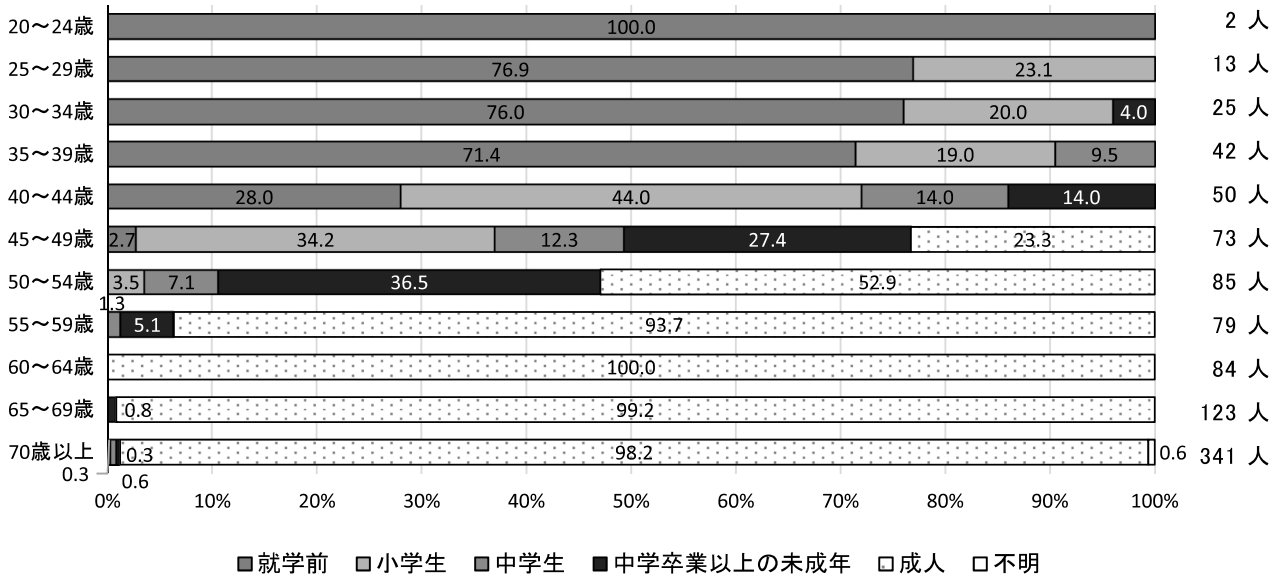


F4-1　一番下の子どもの年代

【男性・年齢別】



【女性・年齢別】



男女別・年齢別でみると、子どもが「いる」回答者の中で「就学前」の子どもがいる年齢層について、男性では、25～29 歳、30～34 歳、35～39 歳で概ね 7 割以上となっているが、40～44 歳で 33.3%、45～49 歳で 16.3%と、40 代でも就学前の子どもがいるケースが比較的多くなっている。女性では、20 代、30 代で「就学前」の子どもがいる割合はそれぞれ 7 割以上となっているが、40～44 歳でも 28.0%（40～44 歳女性のうちの 23.3%）となっている。前回調査では、40～44 歳女性の回答者のうち、就学前の子どもがいるのは 15.1%であり、8.2 ポイント上昇している。

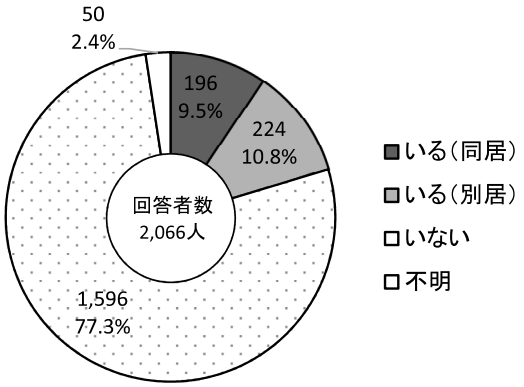
また、「中学生」以下の子どもがいる年齢層について、男性では 50～54 歳で 28.5%、女性では 50～54 歳で 10.6%（50～54 歳女性のうちの 9.3%）となっている。前回調査では、50～54 歳女性の回答者のうち、中学生以下の子どもがいるのは 8.2%であり、あまり変化していないものの、今回の調査に新たに追加した選択肢である「未成年」の子どもがいるケースは、50 代前半で子どもがいる男女のそれぞれ 5 割前後となっている。

ウ　家族の介護の有無

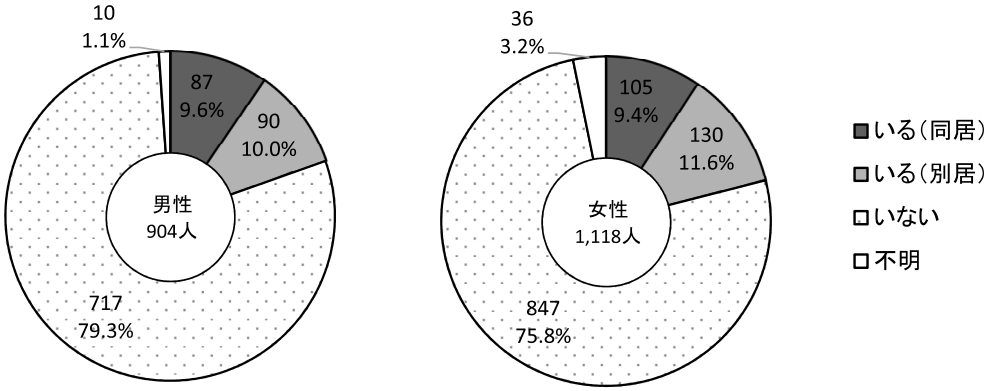
F5　あなたのご家族に介護を必要とする方はいますか。（１つ選択）
1　　いる（同居）　　2　　いる（別居）　　3　　いない

家族に介護を必要とする人がいるかについては、「いる（同居）」が 9.5%、「いる（別居）」が 10.8%で、「いる」割合は 20.3%となっている。

F5　介護を必要とする人



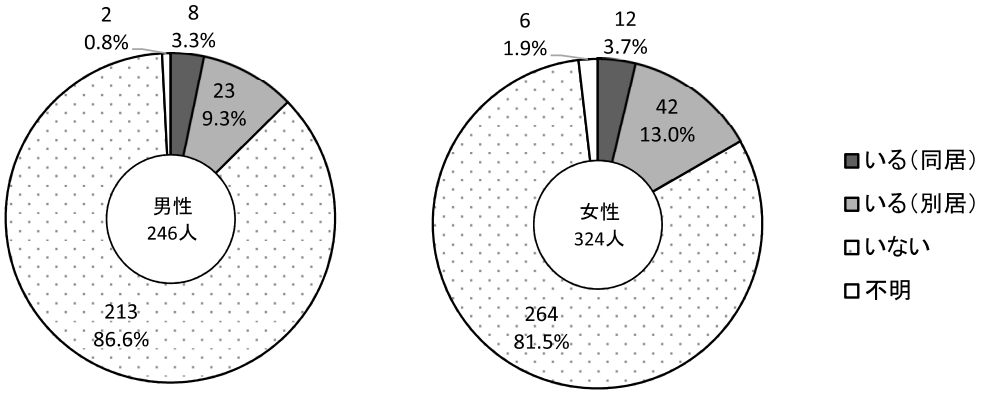
F5　介護を必要とする人【男女別】



男女別にみると、家族に介護を必要とする人が「いる」割合は、男性 19.6%、女性 21.0%で、女性における割合が若干高くなっている。

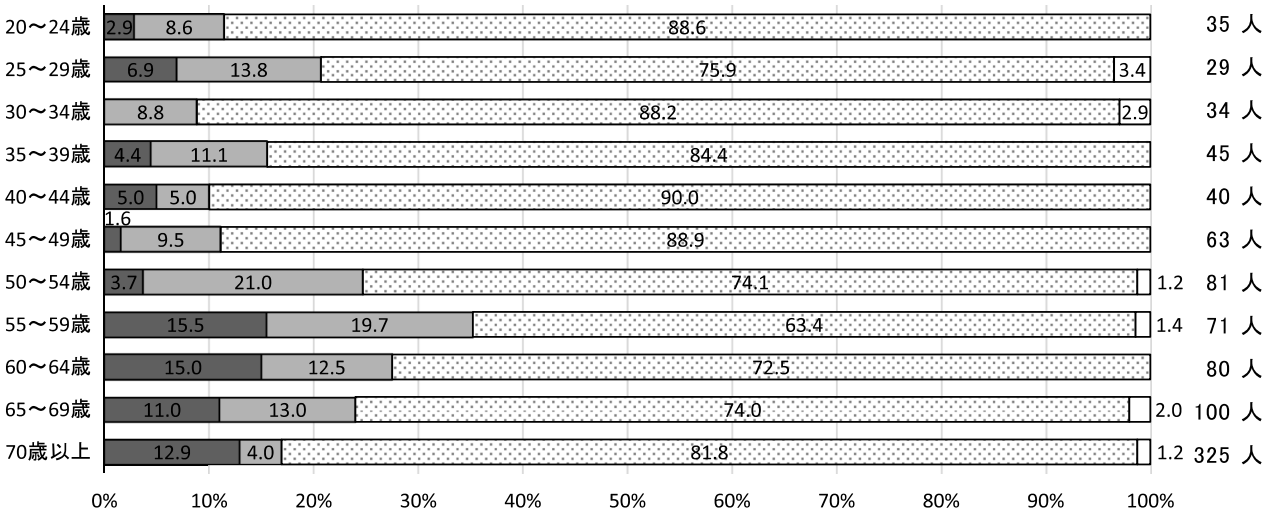
さらに、50 歳未満でみると、家族に介護を必要とする人が「いる」割合は、男性 12.6%、女性 16.7%と、女性で 4.1 ポイント高くなっている。

F5　介護を必要とする人【男女別・50 歳未満】

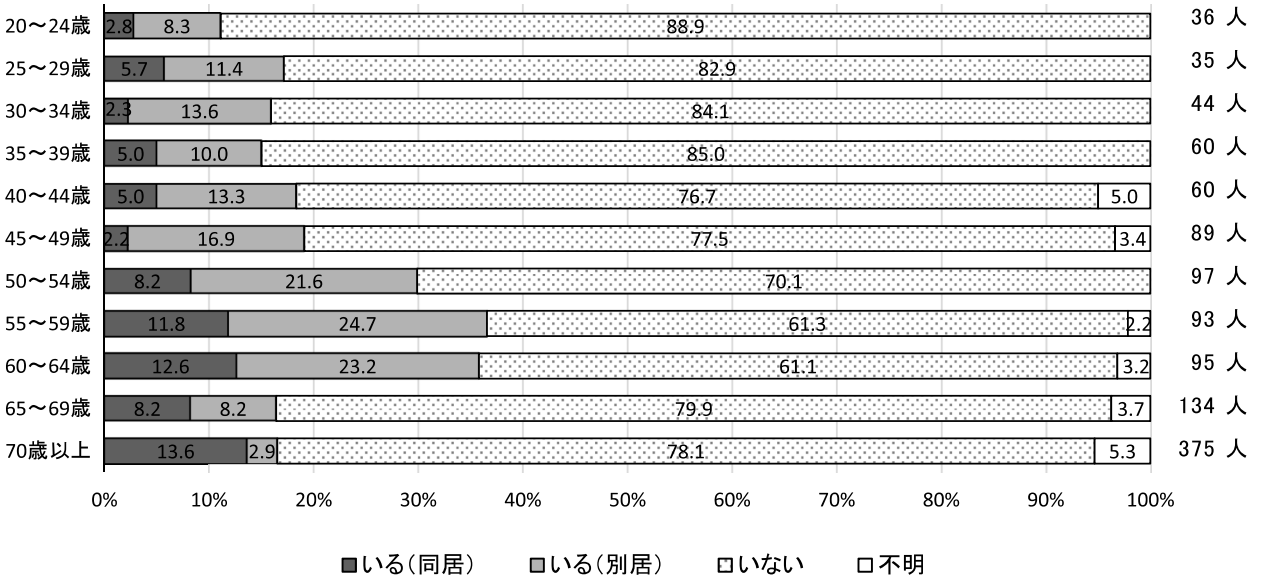


F5　介護を必要とする人

【男性・年齢別】



【女性・年齢別】



男女別・年齢別でみると、介護を必要とする人が「いる」（同居、別居を含む）割合が高くなるのは男女ともに 50 歳以上であり、男性では 50～54 歳で 24.7%、55～59 歳で 35.2%、60～64 歳で 27.5%、女性では 50～54 歳で 29.8%、55～59 歳で 36.5%、60～64 歳で 35.8%であり、いずれの年齢層も女性で介護を必要とする人がいる割合が若干高くなっている。ただし、65～69 歳については、男性のほうが、介護を必要とする人がいる割合が高くなっている。

一方で、介護を必要とする人が同居している割合は、男性では 55～59 歳で 15.5%、60～64 歳で 15.0%、65～69 歳で 11.0%であり、女性では 55～59 歳で 11.8%、60～64 歳で 12.6%、65～69 歳で 8.2%であり、いずれの年齢層も男性で要介護者と同居している割合が若干高くなっている。

4　家族構成

F6　あなたが現在同居しているご家族の構成は、次のうちどれにあてはまりますか。（１つ選択）	
1　ひとり暮らし	2　夫婦のみ（事実婚も夫婦とみなします。）
3　親と子（二世代）	4　親と子と孫など（三世代以上）
5　その他　（　　）	

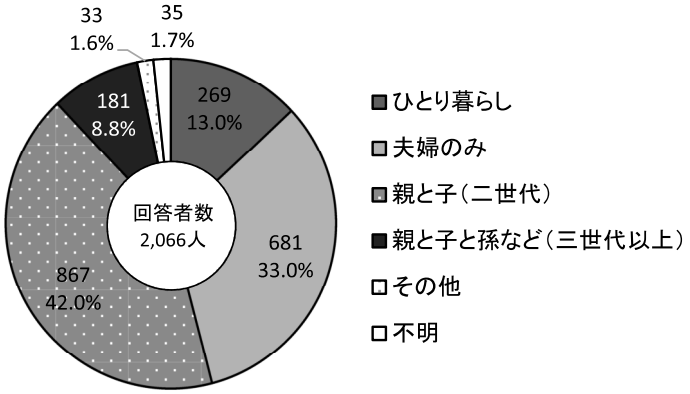
家族構成については、「親と子（二世代）」が 42.0%、「夫婦のみ」が 33.0%と全体の７割を占めている。

また、「ひとり暮らし」が 13.0%、「親と子と孫など（三世代以上）」が 8.8%となっている。

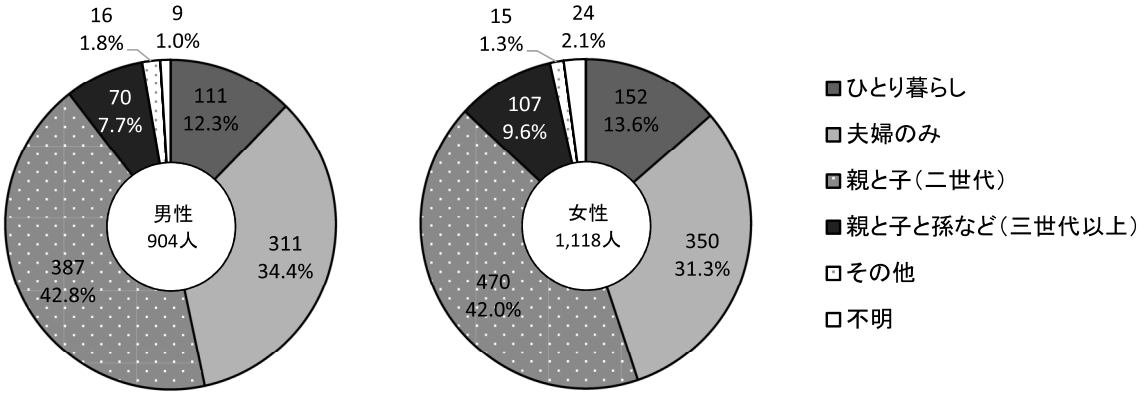
■その他の回答（抜粋）

・義弟と同居　・兄
・老夫婦と孫　・介護施設
・婚約者　・彼氏　など

F6　家族構成



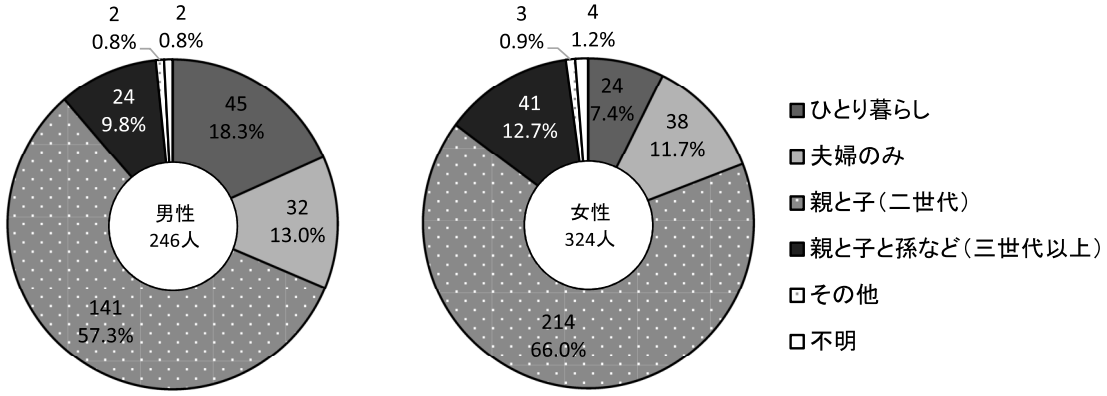
F6　家族構成【男女別】



男女別にみると、男女ともに「親と子（二世代）」の割合が最も高く（男性 42.8%、女性 42.0%）、次いで「夫婦のみ」（男性 34.4%、女性 31.3%）となっている。「親と子と孫など（三世代以上）」は男性が 7.7%、女性が 9.6%と、女性で 1.9 ポイント高くなっている。

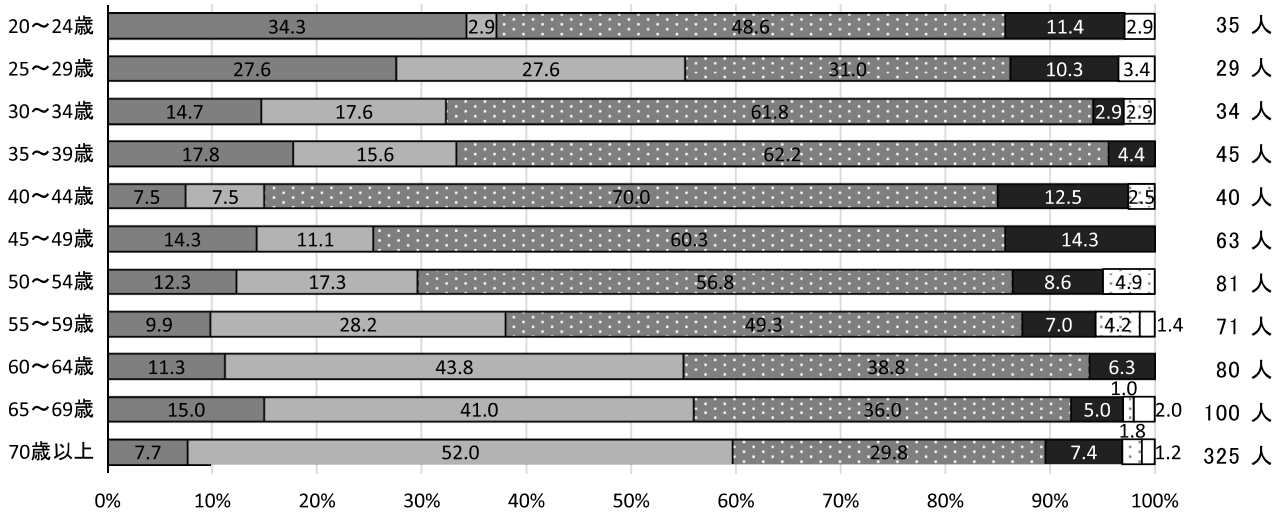
50 歳未満でみると、「親と子（二世代）」が男性 57.3%、女性 66.0%と、女性における割合が高く、一方、男性では「ひとり暮らし」の割合が 18.3%と高くなっている。

F6　家族構成【男女別・50 歳未満】

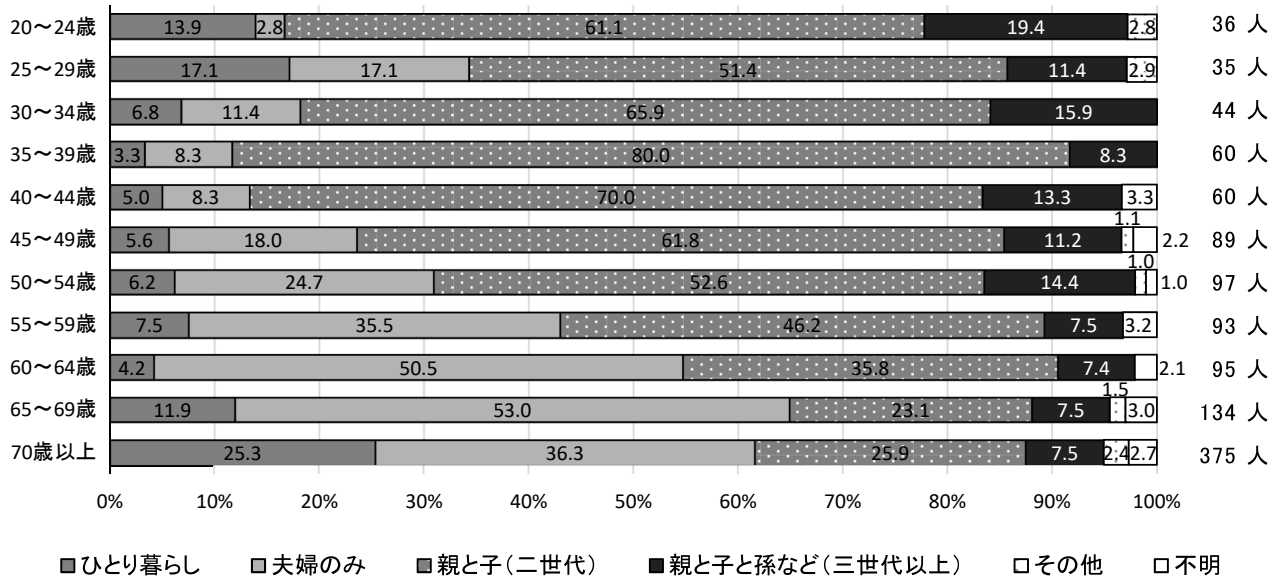


F6　家族構成

【男性・年齢別】



【女性・年齢別】



男女別・年齢別にみると、「ひとり暮らし」の割合は、男性では 20～24 歳、女性では 70 歳以上が最も高くなっている。前回調査と比較すると、男性の 20～24 歳では 21.0 ポイント増（13.3%→34.3%）、女性の 70 歳以上では 8.7 ポイント増（16.6%→25.3%）と、それぞれ増加している。

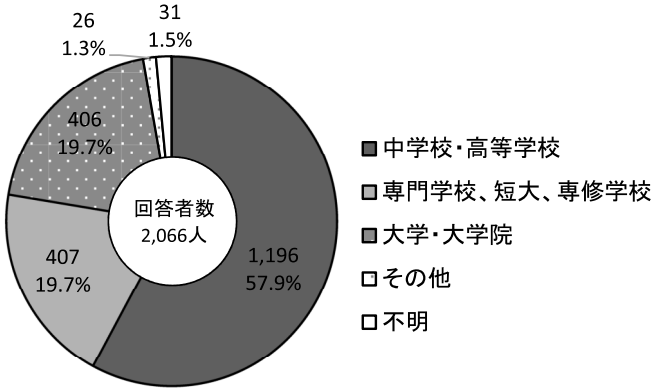
「夫婦のみ」の割合は、男女とも 40 歳以上から年齢層が上がるにつれて徐々に増加し、男性では、60～64 歳で 43.8%、65～69 歳で 41.0%、70 歳以上で 52.0%に達し、女性では、60～64 歳で 50.5%、65～69 歳で 53.0%に達し、70 歳以上で 36.3%に下がっている。年齢とともに、核家族から夫婦のみ世帯となり、最終的にひとり暮らしとなるケースが多いことがうかがえる。

5　最終学歴

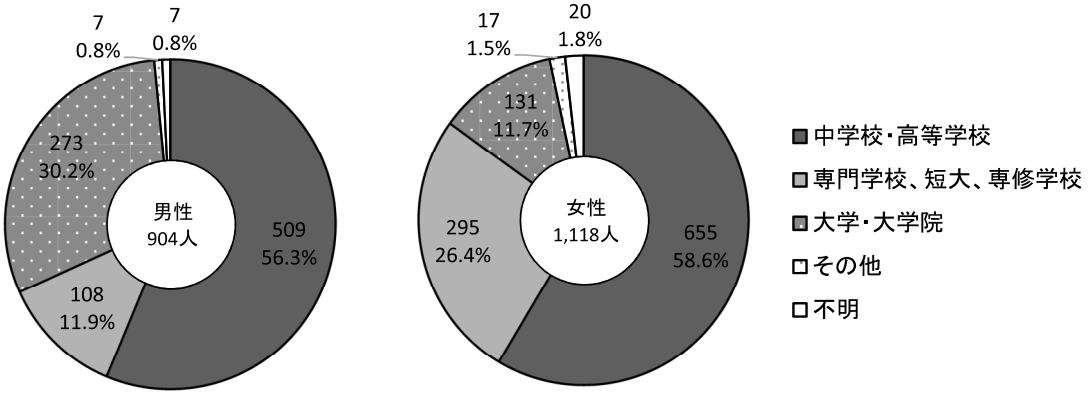
F7　あなたが最後に卒業した学校、又は現在 在学中の学校はどれですか。（１つ選択）			
1	中学校・高等学校	2	専門学校、短大、専修学校
3	大学・大学院	4	その他

最終学歴については、「中学校・高等学校」が57.9%、「専門学校、短大、専修学校」が19.7%、「大学・大学院卒」が19.7%となっている。

F7　最終学歴



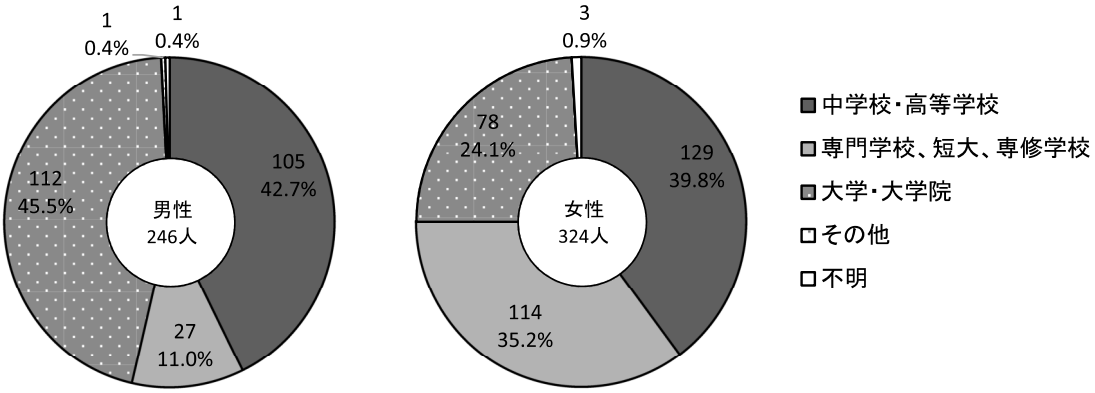
F7　最終学歴【男女別】



男女別にみると、「中学校・高等学校」は男性56.3%、女性58.6%と、ほぼ同じ割合であるが、「専門学校、短大、専修学校」は男性11.9%、女性26.4%と、女性で14.5ポイント高くなっている。一方、「大学・大学院」は、男性30.2%、女性11.7%と、男性で18.5ポイント高くなっている。

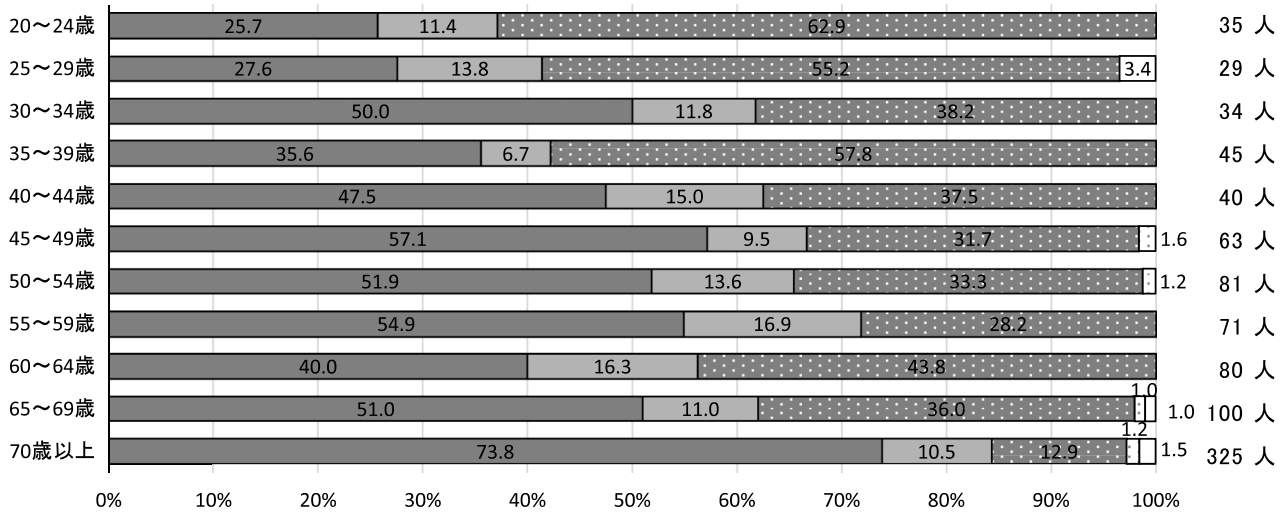
50歳未満で前回調査と比較すると、「大学・大学院」は、男性で8.4ポイント上昇（37.1%→45.5%）、女性で0.4ポイント上昇（23.7%→24.1%）しているが、男女の最終学歴の差はますます大きくなっている。

F7　最終学歴【男女別・50歳未満】

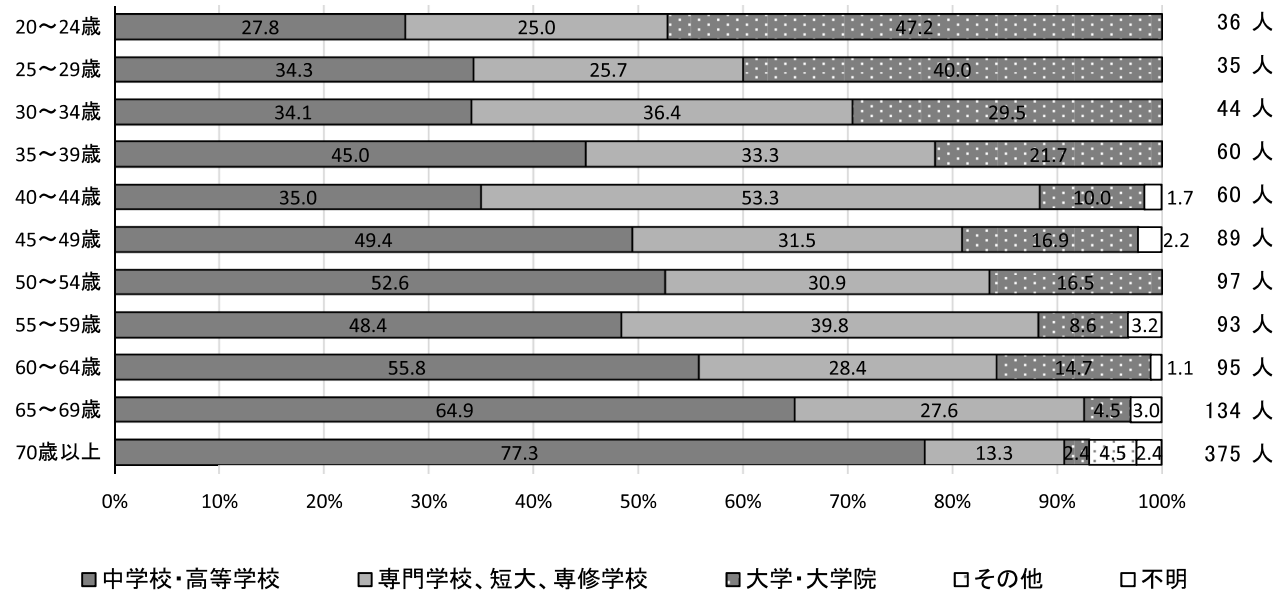


F7　最終学歴

【男性・年齢別】



【女性・年齢別】



男女別・年齢別にみると、男女ともに若い年代ほど「大学・大学院」の割合が高くなっているが、男性では、60 代の「大学・大学院」の割合が比較的高くなっている。

また、前回調査と比較して、今回調査では、20 代の「大学・大学院」の割合が高くなっており、特に女性では、20～24 歳で 14.7 ポイント増（32.5%→47.2%）、25～29 歳で 12.1 ポイント増（27.9%→40.0%）となっており、女性の進学率がさらにあがっていることがうかがえる。

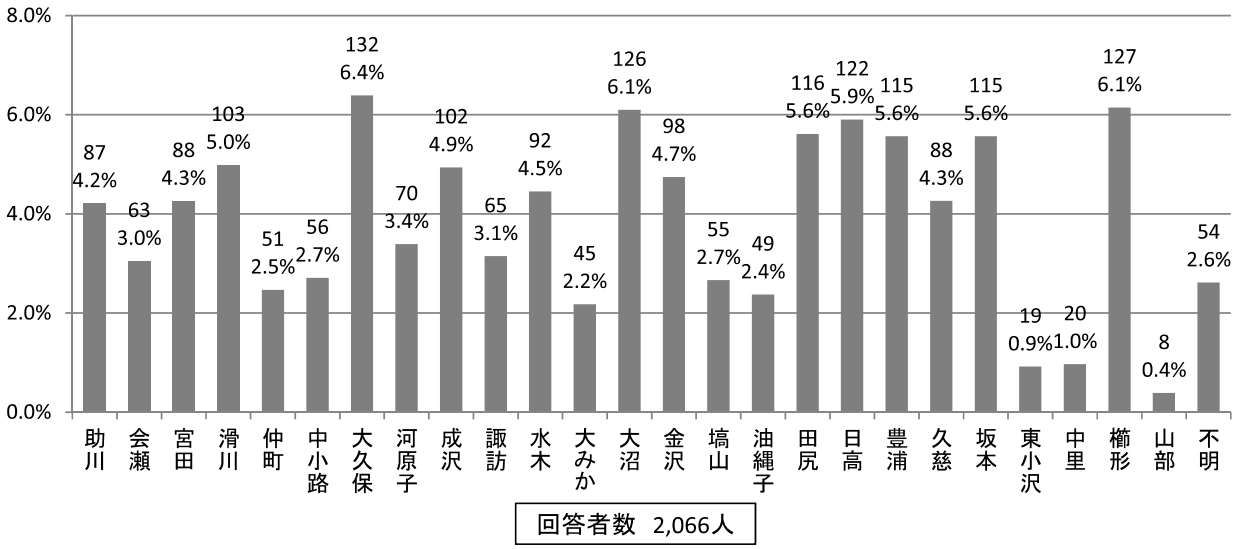
一方で、女性は男性に比べて「専門学校、短大、専修学校」の割合が高く、20 代でもその傾向は続いている。

6　居住地区

F8　あなたがお住まいの小学校学区に〇をつけてください。（１つ選択）

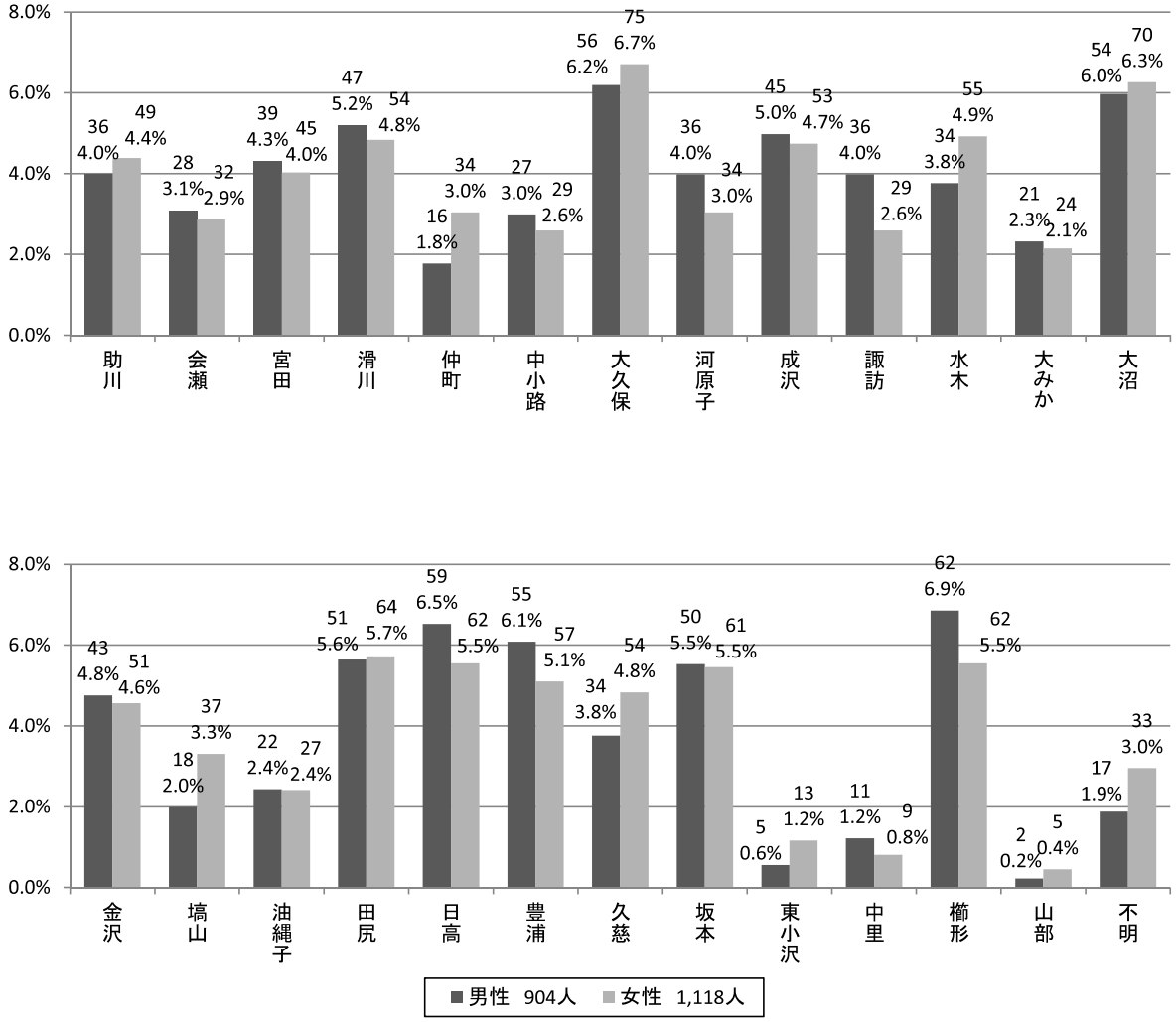
１ 助川	２ 会瀬	３ 宮田	４ 滑川	５ 仲町
６ 中小路	７ 大久保	８ 河原子	９ 成沢	１０ 諏訪
１１ 水木	１２ 大みか	１３ 大沼	１４ 金沢	１５ 塙山
１６ 油縄子	１７ 田尻	１８ 日高	１９ 豊浦	２０ 久慈
２１ 坂本	２２ 東小沢	２３ 中里	２４ 櫛形	２５ 山部

F6　居住地区



回答者の居住地をみると、市内全域からの回答となっている。
男女別についても、市内全域からの回答となっている。

F6　居住地区【男女別】


8.0%
6.0%
4.0%
2.0%
0.0%
36 4.0%
49 4.4%
28 3.1%
32 2.9%
39 4.3%
45 4.0%
47 5.2%
54 4.8%
16 1.8%
34 3.0%
27 3.0%
29 2.6%
56 6.2%
75 6.7%
36 4.0%
34 3.0%
45 5.0%
53 4.7%
36 4.0%
29 2.6%
34 3.8%
55 4.9%
21 2.3%
24 2.1%
54 6.0%
70 6.3%
助川
会瀬
宮田
滑川
仲町
中小路
大久保
河原子
成沢
諏訪
水木
大みか
大沼
43 4.8%
51 4.6%
18 2.0%
37 3.3%
22 2.4%
27 2.4%
51 5.6%
64 5.7%
59 6.5%
62 5.5%
55 6.1%
57 5.1%
34 3.8%
54 4.8%
50 5.5%
61 5.5%
5 0.6%
13 1.2%
11 1.2%
9 0.8%
62 6.9%
62 5.5%
2 0.2%
5 0.4%
17 1.9%
33 3.0%
金沢
塙山
油縄子
田尻
日高
豊浦
久慈
坂本
東小沢
中里
櫛形
山部
不明
男性　904人
女性　1,118人